

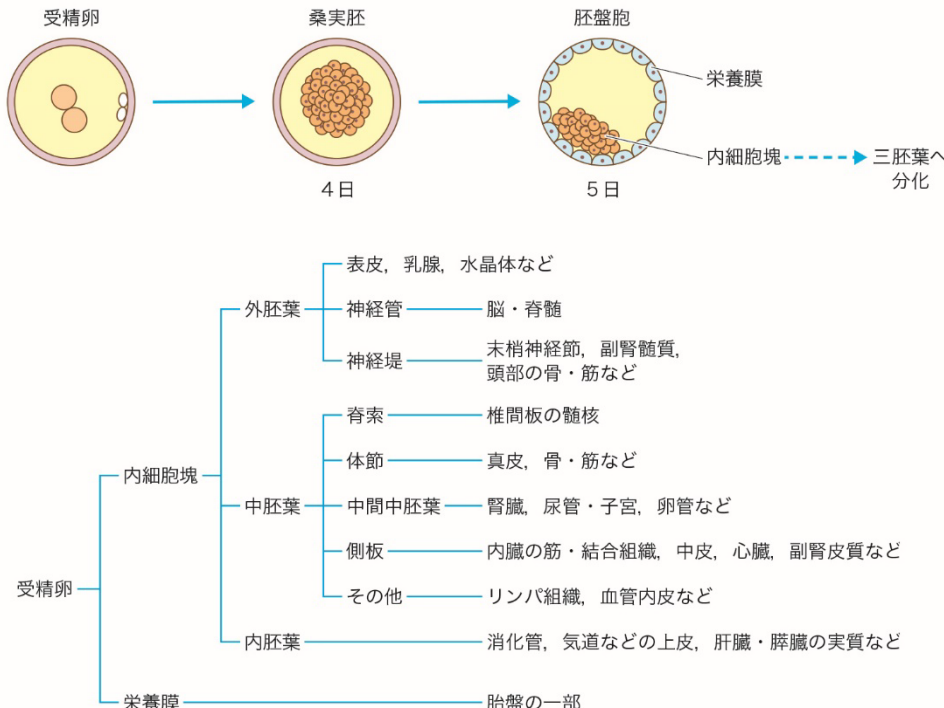
## 正 誤 表

「健康・栄養科学シリーズ 解剖生理学（第1刷）」

下記の箇所にご迷惑がございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

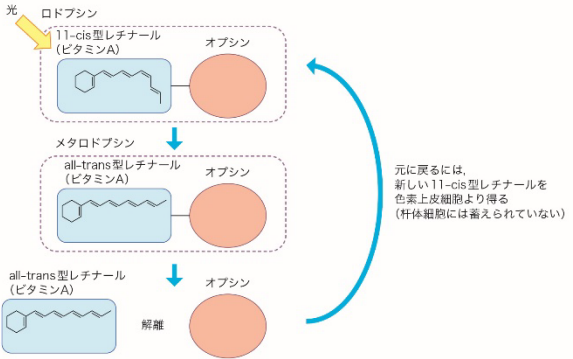
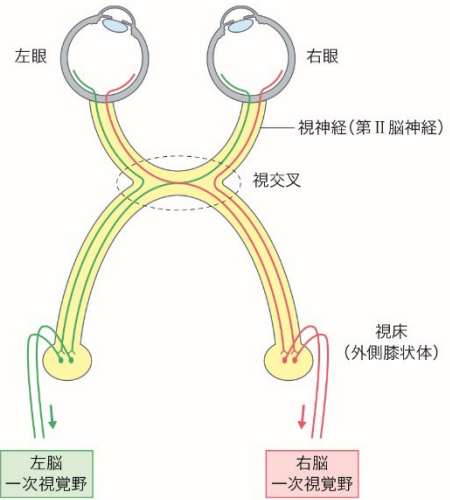
頁	該当箇所	誤	正
8	図 1	(頂部)	(項部)
14	3 行目	神経伝達物質などの液性因子の受容	神経伝達物質などの受容
14	図 7	追加	[河田光博ほか(著)：シンプル解剖生理学，南江堂，2004より作成]
15	15 行目	イオンなどの濃度勾配を利用する	イオンなどの細胞内外の濃度勾配を利用する
16	図9 図中文字	細胞間膜	間質液
19	下から 3 行目	遊離リボソームでは細胞質のたんぱく質が作られ，膜結合リボソームでは膜たんぱく質，あるいは細胞外に分泌される分泌たんぱく質が作られる．	膜結合リボソームで作られるたんぱく質は，次に述べる小胞体の内腔あるいは生体膜に組み込まれる．
20	3 行目	粗面小胞体は膜結合リボソームを伴う扁平な小胞体で，細胞外に分泌される分泌たんぱく質や膜たんぱく質が作られる場である．粗面小胞体で作られた分泌・膜たんぱく質は，	粗面小胞体は膜結合リボソームを伴う扁平な小胞体で作られたたんぱく質は，
20	図 11 の説明 1 行目	粗面小胞体で作られた分泌・膜たんぱく質は，	粗面小胞体で作られたたんぱく質は，

21	見出し下	▷分泌・膜たんぱく質を修飾し,	▷粗面小胞体で作られたたんぱく質を修飾し,
21	2行目	粗面小胞体で作られた分泌・膜たんぱく質は,	粗面小胞体で作られたたんぱく質は,
22	図 12 の説明 3 行目	リポフスチン顆粒	リポフスチン
22	下から 4 行目	リソソームがみられる	小体が見られる
25	下から 5 行目	遺伝情報を伝える DNA をゲノム DNA という.	削除
25	ヒストン用語解説 4 行目	ヌクレオソームのヒストン・コア	ヌクレオソーム・コア
25	ヒストン用語解説 7 行目	ヒストン・コア	ヌクレオソーム8量体
25	図 14	差し替え	<p><b>図14 核とクロマチンの構造</b></p> <p>左：核を切って内部をみたところ。核膜は中間径フィラメントでできた核ラミナに裏打ちされている。</p> <p>右上：DNAは、ヒストンなどのたんぱく質とともにクロマチン線維を形成する。</p> <p>右下：クロマチン線維をほどいたところ。DNAは、一定間隔でヒストン8量体に巻き付いている。この単位をヌクレオソームという。</p>
28	図 16	差し替え	

			 <p>受精卵 → 桑実胚 (4日) → 胚盤胞 (5日)</p> <p>胚盤胞の構成: 栄養膜, 内細胞塊 (三胚葉へ分化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受精卵       <ul style="list-style-type: none"> <li>内細胞塊           <ul style="list-style-type: none"> <li>外胚葉               <ul style="list-style-type: none"> <li>表皮, 乳腺, 水晶体など</li> <li>神経管 → 脳・脊髄</li> <li>神経堤 → 末梢神経節, 副腎髄質, 頭部の骨・筋など</li> </ul> </li> <li>中胚葉               <ul style="list-style-type: none"> <li>脊索 → 椎間板の髄核</li> <li>体節 → 真皮, 骨・筋など</li> <li>中間中胚葉 → 腎臓, 尿管・子宮, 卵管など</li> <li>側板 → 内臓の筋・結合組織, 中皮, 心臓, 副腎皮質など</li> <li>その他 → リンパ組織, 血管内皮など</li> </ul> </li> <li>内胚葉 → 消化管, 気道などの上皮, 肝臓・膵臓の実質など</li> </ul> </li> <li>栄養膜 → 胎盤の一部</li> </ul> </li> </ul> <p><b>図16 人体の発生の概要</b></p> <p>上: 受精卵は, 桑実胚を経て胚盤胞となる. 胚盤胞の内細胞塊から身体組織が分化する.  下: 内細胞塊からは, 外・中・内胚葉の組織が分化し, 各組織・器官が形成される.</p>
32	粘膜の用語解説	表面が粘液に覆われる上皮.	消化器, 呼吸器, 泌尿器, 生殖器系の中空性器官の内腔を覆う膜で, 表面は粘液などで湿潤である. 中空性器官内腔以外に眼の結膜や外陰部の表面などにもある.
33	卵管の用語解説	受精は通常, 卵管 (膨大部) で起こる.	削除
35	14 行目	骨細胞	骨芽細胞
35	骨細胞の用語解説	差し替え	*骨芽細胞

			骨形成の際は盛んに線維と基質を産生する細胞. 自らが産生した骨基質に埋没し骨細胞となる.
38	7行目	・膜結合リボソームでは膜たんぱく質あるいは分泌たんぱく質が作られる. 一方, (6) リボソームでは細胞質のたんぱく質が作られる.	削除
44	図6の舌下腺の図	粘膜腺の分泌部	粘液腺の分泌部
48	1行目	マイスネル神経叢	マイスネル神経叢 (粘膜下神経叢)
48	1行目	アウエルバッハ神経叢	アウエルバッハ神経叢 (筋層間神経叢)
48	図10	図差し替え	<p>図10 小腸壁</p>

48	図 11	図差し替え	<p>図11 小腸粘膜</p>												
77	表 4	表差し替え	<p>表4 単糖を輸送するトランスポーター</p> <table border="1" data-bbox="1019 790 1736 941"> <thead> <tr> <th></th> <th>腸管 ⇒ 細胞 (管腔側細胞膜)</th> <th>細胞 (側底側細胞膜) ⇒ 組織</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グルコース</td> <td>SGLT1</td> <td>GLUT2</td> </tr> <tr> <td>ガラクトース</td> <td>SGLT1</td> <td>GLUT2</td> </tr> <tr> <td>フルクトース</td> <td>GLUT5</td> <td>GLUT2, GLUT5</td> </tr> </tbody> </table>		腸管 ⇒ 細胞 (管腔側細胞膜)	細胞 (側底側細胞膜) ⇒ 組織	グルコース	SGLT1	GLUT2	ガラクトース	SGLT1	GLUT2	フルクトース	GLUT5	GLUT2, GLUT5
	腸管 ⇒ 細胞 (管腔側細胞膜)	細胞 (側底側細胞膜) ⇒ 組織													
グルコース	SGLT1	GLUT2													
ガラクトース	SGLT1	GLUT2													
フルクトース	GLUT5	GLUT2, GLUT5													
77	Na <sup>+</sup> ・グルコース共輸送体の用語解説 2～3行目	腸管内のグルコース, ガラクトース, フルクトースを細胞内に	腸管内のグルコースおよびガラクトースを細胞内に												
80	7行目	脂肪酸	中鎖脂肪酸												

246	図 21	図差し替え	 <p>光の<input data-bbox="1064 239 1086 255" type="text"/>により、オプシンと結合しているレチナールの構造が変化する。11-cis 型レチナールが all-trans 型レチナールに変化することで、メタロドプシン（活性型）が形成される。元のロドプシンに戻るためには、11-cis 型レチナールとオプシンが新たに結合する必要があるが、杆体細胞内には備蓄されていないため、色素上皮細胞から供給される必要があり、回復に時間がかかる。ビタミンAの欠乏はロドプシン形成に影響する。</p> <p>元に戻るには、新しい11-cis型レチナールを色素上皮細胞より得る（杆体細胞には蓄えられていない）</p> <p>■図21 ロドプシン</p>
247	図 22	図差し替え	 <p>■図22 視交叉</p>
260	下から 2 行目	thyroxin	thyroxine
269	下から 3 行目	抑制	促進

269	脇組	(追加)	<p>*ビタミン D</p> <p>直接作用としては破骨細胞を刺激、骨吸収に働き血中 <math>\text{Ca}^{2+}</math>濃度を上昇させることが報告されているが、破骨細胞自体を骨に運ぶたんぱく質の受容体の発現をコントロールすることで、臨床的には間接的に骨破壊を防いでいるとされている。</p>																										
277	表 6 のインスリンの 列 5 行目	トリアシルグリセロール	トリアシルグリセロール (中性脂肪)																										
278	5 行目	トリアシルグリセロール	トリアシルグリセロール (中性脂肪)																										
284	下から 4 行目	プロピオメラノコルチン (proopiomelanocortin, POMC)	プロオピオメラノコルチン (proopiomelanocortin, POMC)																										
329	下から 1 行目	骨格筋に分布する運動神経は、筋原線維の集合体である筋線維を覆う膜である筋内膜で多数の枝に分岐して筋線維との間に神経筋接合部 (シナプス) を形成する	骨格筋に分布する運動神経は多数の枝に分岐して、筋原線維の集合体である筋線維を覆う筋内膜レベルで神経筋接合部 (シナプス) を形成する																										
330	脇組	(追加)	<p>*筋内膜</p> <p>筋線維鞘の外側にある膜性の構造。</p>																										
341	表 1	表差し替え	<p style="text-align: center;"><b>表1 皮膚感覚の受容器と伝導路</b></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">感覚</th> <th>受容器</th> <th>伝導路</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">触覚・ 圧覚</td> <td>表皮</td> <td>メルケル細胞*</td> <td>後索-内側毛帯路</td> </tr> <tr> <td>真皮</td> <td>メルケル盤, マイスネル小体, 毛包周囲神経叢, ルフィニ小体, クラウゼ小体</td> <td>後索-内側毛帯路</td> </tr> <tr> <td>振動覚</td> <td></td> <td>パチニ小体</td> <td>後索-内側毛帯路</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">温度感覚</td> <td>冷覚</td> <td>自由神経終末</td> <td>脊髓視床路</td> </tr> <tr> <td>温覚</td> <td>自由神経終末</td> <td>脊髓視床路</td> </tr> <tr> <td>痛覚, 痒覚, くすぐったい感覚</td> <td></td> <td>自由神経終末</td> <td>脊髓視床路</td> </tr> </tbody> </table> <p>*表皮のメルケル細胞には真皮からのメルケル盤が接合している。</p>	感覚		受容器	伝導路	触覚・ 圧覚	表皮	メルケル細胞*	後索-内側毛帯路	真皮	メルケル盤, マイスネル小体, 毛包周囲神経叢, ルフィニ小体, クラウゼ小体	後索-内側毛帯路	振動覚		パチニ小体	後索-内側毛帯路	温度感覚	冷覚	自由神経終末	脊髓視床路	温覚	自由神経終末	脊髓視床路	痛覚, 痒覚, くすぐったい感覚		自由神経終末	脊髓視床路
感覚		受容器	伝導路																										
触覚・ 圧覚	表皮	メルケル細胞*	後索-内側毛帯路																										
	真皮	メルケル盤, マイスネル小体, 毛包周囲神経叢, ルフィニ小体, クラウゼ小体	後索-内側毛帯路																										
振動覚		パチニ小体	後索-内側毛帯路																										
温度感覚	冷覚	自由神経終末	脊髓視床路																										
	温覚	自由神経終末	脊髓視床路																										
痛覚, 痒覚, くすぐったい感覚		自由神経終末	脊髓視床路																										

346	図 6	図差し替え	<p>■図6 体温の制御機構 *甲状腺ホルモン、カテコラミン (ノルアドレナリン、アドレナリン)</p>
353	左の段の 12 行～15 行目	⑥遊離 (自由でも可), ⑦滑面小胞体, ⑧加水分解, ⑨ポリユビキチン, ⑩ユー, ⑪重層扁平, ⑫全, ⑬コラーゲン, ⑭ギャップ, ⑮リボソーム RNA (rRNA)	⑥滑面小胞体, ⑦加水分解, ⑧ポリユビキチン, ⑨ユー, ⑩重層扁平, ⑪全, ⑫コラーゲン, ⑬ギャップ, ⑭リボソーム RNA (rRNA)

2021年9月22日  
株式会社南江堂